



▲誓いの言葉を述べる新成人(第1部)

新成人を代表して誓いの言葉を述べたのは、第1部では梅井涼葉さんと本郷玲緒さん、第2部では加藤友梨さんと白木乃衣さん。「自分たちが持つ力を発揮し、輝かしい未来をつくり上げた」と、力強い決意を話しました。新成人たちは、旧友との再

市政トピックス

成人式―誓い新たに二十歳の門出

1月9日に、カメイアリーナ仙台(仙台市体育館)で成人式が行われました。本年度市内で二十歳を迎えた新成人は、平成13年4月2日から平成14年4月1日に生まれた1万1076人です。

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、青葉区・泉区と、宮城野区・若林区・太白区の参加者を分ける二部制を導入。座席指定や消毒の徹底など、さまざまな感染症対策を講じた上で開催されました。式典には約5800人が参加し、郡市長が「それぞれの夢に向かって存分に力を発揮し、このまちの主役となつてほしい」とメッセージを贈りました。

新成人を代表して誓いの言葉を述べたのは、第1部では梅井涼葉さんと本郷玲緒さん、第2部では加藤友梨さんと白木乃衣さん。「自分たちが持つ力を発揮し、輝かしい未来をつくり上げた」と、力強い決意を話しました。新成人たちは、旧友との再

市政トピックス

豊島英選手・藤本怜央選手に「賛辞の楯」を贈呈

昨年9月、東京2020パラリンピックの車いすバスケットボール男子において銀メダルを獲得した、豊島英選手・藤本怜央選手の功績をたたえ、12月21日に「賛辞の楯」を贈呈しました。

両選手は、仙台市に本拠地を置く車いすバスケットボールチーム・宮城MAXに長らく在籍し、豊島選手は通算3回、藤本選手は5回のパラリンピックに出場する



▲豊島選手(中央左)と藤本選手(中央右)

市政トピックス

など、共に日本代表をけん引してきた存在です。

キャプテンとしてチームを率いた豊島選手は「銀メダルは、たくさんの方に応援していただき成し遂げられた結果だと、改めて感じています」と応援への感謝を述べました。また、攻守の要として活躍した藤本選手は「皆さんから勇気と元気をもらい、戦うことができました。5年間重ねてきた努力が報われた瞬間を、チームで分かち合えたことが、メダル以上に大きな財産」と振り返りました。

豊島選手は、次世代の選手の手助けをしたいと話し、現在ドイツのチームでもプレーする藤本選手は、次回パリ大会での金メダル獲得に對する意欲も語ってくれました。

郡市長は「初のメダル獲得に、仙台はもちろん日本中が喜びに沸いたと思います。それぞれが次のステージでも輝き、活躍されることを期待しています」と健闘をたたえました。

当日は、赤間市議会議長より、「仙台市議会議長特別表彰」の授与も行われました。

市政トピックス

杜の都を世界へ―G7関係閣僚会合仙台誘致推進協議会設立

令和5年に日本で開催予定の、主要国首脳会議(G7サミット)に伴う関係閣僚会合の仙台誘致に向け、本市や宮城県、東北大学、経済団体等からなる誘致推進協議会が、12月20日に設立されました。同日の第1回協議会では、仙台で科学技術担当大臣会合または環境大臣会合の開催を目指す方針を説明。東日本大震災からの復興と世界各国からの支援に対する感謝を伝えるとともに、仙台・東北が持つ多彩な観光資源等の魅力を世界に発信していく機会とすることを確認しました。また、東北大学と連携した最先端科学技術を活用するまちづくりや、「防災環境都市」としての取り組み等をアピールし、誘致活動を進めていくことで合意しました。

市政トピックス

3.11 震災文庫を 読む 51

「また次の春へ」
重松清による7つの物語です。2作品だけ紹介します。
「記念日」
麻衣の学級では、支援物資としてカレンダーを選びました。話し合いの末、3月までを省いたり、記念日の赤印を消したりしてから送りました。その心遣いはどうだったのでしょうか。
「また次の春へ」
津波で行方不明のままの両親の死を受け入れられずにいる洋行の元へ、手紙が転送されてきます。「メモリアルベンチ・オナー」の皆様に「この手紙に洋行は救われます。」
「人に寄り添う。寄り添われる」さまざまな立場から描かれている7つの物語を疑似体験する中で、それが、いかに難しく、でもいかに、心温まることであるかということに気付かされます。

「氷柱の声」
東日本大震災当時、伊智花は盛岡に住む高校生でした。美術部の伊智花は、絵で被災地にメッセージを送ると言われても、内陸でほとんど被害を受けていない自分が何を描くのも失礼に当たるように思えてしまうのでした。そこから10年間、出会いを通して、震災で何も失ってない人も、大変な思いをした人も、形は違えども傷ついていたことを知ります。また、「希望の子ども」「善意の人」この言葉が時に足かせとなった人もいるのでした。
たとえ些細な体験でも語り継ぐことは未来につながります。作者は言います。この作品は「震災もの」ではない。誰かの日常であり、あなたの日常であり、これからも続くものであると思うと。

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本をご紹介します。

やり場のない気持ちに寄り添うブックトークボランティア「ランプ」代表 堀 多佳子

重松清 / 著 文藝春秋 刊
「また 次の春へ」

永住の声 / 著 講談社 刊
「氷柱の声」

市政トピックス

「スチューデントシティ」が住民5万人を達成

12月17日に、仙台子ども体験プラザの「スチューデントシティ」を利用した児童数を示す、住民登録者数が5万人に達しました。

平成26年8月に開館した子ども体験プラザは、市内の小・中学生を対象とした体験型教育施設です。このうち、小学校高学年を対象としたスチューデントシティでは、施設内に再現された「街」の店舗や事業所で働く体験等を通じ、社会との関わりや経済の仕組みを学ぶことができます。

この日は加茂小学校・立町小学校の6年生の体験学習が行われ、最後に、5万人目の住民登録を行った児童が発表されました。5万人目となったのは、加茂小学校の白石千馬さん。「すごく驚いたけど、うれしい」と笑顔で話しました。

スチューデントシティで、児童は働く側と、働いて得た給与で消費活動・納税をする側の両方を体験します。働く時間には、自ら呼び込みをしたり、仲間と売り方の試行錯誤を重ねたりと、児童が体験を通じて主体的に考え、行動する姿が見られました。体験を終え

この日スチューデントシティ市長を務めた小野寺璃子さん(右・立町小)から、白石さんに記念品が授与されました



児童は、協賛する9つの企業と市役所のいずれかで働きます。コンビニでは、レジでの会計や商品管理に挑戦していました



市政トピックス

仙台市防災功労表彰を実施しました

本市の防災・減災に尽力され、顕著な功績のあった団体等を表彰する仙台市防災功労表彰を、1月17日に行いました。本年度受賞した3団体は次のとおりです(順不同)。
「仙台市若林地区婦人防火クラブ連絡協議会」「せんだい泉エフエム放送株式会社」「せんだい女性防災リーダーネットワーク」